

授業計画

科目名	体育実技				担当	石田 和也	
実務経験	保健体育教員として指導した経験を活かして学生に実技指導を行う					授業形態	実技
単位数	1				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】							
1. スポーツ実践(球技)を通し、健康や体力の向上に努めるとともに豊かなライフワークを身につけさせる。							
2. 安全に留意しながら、ルールを遵守し、責任感や協調性、幼児体育の実践力を身につけさせる。							
【授業全体の内容と概要】							
1. 球技種目のゲームを中心とした授業展開の実施。							
2. 各種目のルールや審判法の理解と実践。							
3. 各種目の攻防の展開の理解と実践。							
4. 体ほぐしや体力づくりの準備運動。(できるだけ短時間で毎回)							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
1. 学生の運動経験、能力、興味、関心等を踏まえ、卒業後も好きなスポーツを継続的にできるようにする。							
2. 健康や体力の維持向上を目指し、自らその実践に努め、地域等の実社会で活かせるようにする。							
3. 球技を中心に授業を行い、安全に留意し、ルールを遵守しフェアプレイの精神を身につけさせる。							
4. 体ほぐしなど幼児体育に関する内容を導入し、実践の場での応用力を身につけさせる。							
授業計画							
第1回	ソフトバレーボールに慣れパス、トス、アタックができるように学習する。						
第2回	ソフトバレーボールの状況に応じたボール操作や安定した連係や動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する方法を学ぶ。						
第3回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくソフトバレーボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第4回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくソフトバレーボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第5回	バドミントンのラケットの握り方、シャトルに慣れ、自分の思い通りにシャトルが打てるようにする。						
第6回	バドミントンの役割に応じたシャトルの操作や安定したラケット操作によって攻防を展開する方法を学ぶ。						
第7回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバドミントンのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第8回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバドミントンのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第9回	卓球のラケットの握り方、ピン球に慣れ、自分の思い通りにピン球が打てるようにする。						
第10回	卓球の役割に応じたピン球の操作や安定したラケット操作によって攻防を展開する方法を学ぶ。						
第11回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しく卓球のゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第12回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しく卓球のゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
第13回	バスケットボールの安定したボール操作と空間作りだし、連係した動きでゴール前の侵入などからの攻防を展開する技能を学ぶ。						
第14回	バスケットボールの状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動き、連係プレー、ルール、審判法について学ぶ。						
第15回	今まで学習して身につけた技術や戦術を使って楽しくバスケットボールのゲームができるようにするとともにルールや審判法を実践で生かす。						
テキスト	道和尚書院	大学生の健康・スポーツ科学					
参考文献	大修館出版	アクティブスポーツ					
	チャイルド社	幼児の運動あそび					
	西東社	スポーツトレーニングの基礎理論					
成績評価の方法	授業態度 ・ 出席状況 ・ 提出物						

授業計画

科目名	国語(書写を含む)				担当	山岡 雄一郎	
実務経験	国語の教員として指導した経験を活かし学生に演習を行う					授業形態	講義・演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			(教養)・必修・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 国語に対する基礎的・基本的知識理解を確実にするとともに、国語教育及び言語生活について考える力を育てる。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 日本語の特徴を表記、音声、語彙、文法などの面から理解を深めるとともに、今日の国語問題や言語環境について考える。また、硬筆を中心とした書写の実践も行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 国語に対する基本的・基本的な知識を身につけるとともに、言語生活を広い視野から考えようとする態度を養う。</p>							
授業計画							
第1回	日本語の特色(1)						
第2回	日本語の特色(2)						
第3回	日本語の音声の特徴(1)						
第4回	日本語の音声の特徴(2)						
第5回	日本語の語彙について(1)						
第6回	日本語の語彙について(2)						
第7回	日本語の文字及び表記法について						
第8回	日本語の文法について(1)						
第9回	日本語の文法について(2)						
第10回	日本語の文法について(3)						
第11回	日本語の文法について(4)						
第12回	日本語の方言について						
第13回	日本語の敬語について						
第14回	国語をとりまく現代の言語環境について						
第15回	試験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	萌文書林		保育者になるための国語表現				
参考文献	岩波新書		金田一春彦著『日本語 新版 上下』				
単位認定方法	授業態度・出席状況・試験						

授業計画

科目名	就職支援				担当	舟木 賢治／持田 陽子	
実務経験	職業訓練サービスガイドライン研修修了者、就職支援実践者として支援を行う					授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	7	8	7	8	○ 教養 必修・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】							
社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な技術を学習する							
【授業全体の内容と概要】							
自己理解を深め、将来のあり方生き方を主体的に考えて具体的な取組みができるようになることをめざし、2年間を通して学習する。校内での授業は、講義演習形式を用いて実施する。また、主体的に行動できるようになるために学外においても活動を実施する。							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な知識や技術を習得する							
授業計画							
第1回	ガイダンス(授業のねらい・内容と進め方等について)				第16回	1年次振り返り	
第2回	自己理解について				第17回	ジョブカード作成	
第3回	自分のめざす社会人像について				第18回	個別面談①進路希望調査	
第4回	職業理解(保育士の仕事の内容と職場環境について)				第19回	個別面談②進路希望調査	
第5回	自分の目指す保育士像と達成への具体的な取組みについて				第20回	福祉人材センターへの登録	
第6回	個別面談①(進路希望調査)				第21回	就職先についての情報収集	
第7回	ジョブカード作製				第22回	ボランティア活動へ向けた取組み	
第8回	求人票の見方、検索方法				第23回	就職を見据えたボランティア活動①	
第9回	履歴書の書き方				第24回	就職を見据えたボランティア活動②	
第10回	電話のかけ方、話し方				第25回	就職を見据えたボランティア活動③	
第11回	礼状の書き方				第26回	就職を見据えたボランティア活動④	
第12回	面接マナーと自己PR				第27回	ボランティア活動報告書作成	
第13回	採用試験対策				第28回	ボランティア活動報告①	
第14回	ボランティア活動に向けた調査①				第29回	ボランティア活動報告②	
第15回	ボランティア活動に向けた調査②				第30回	まとめ	
テキスト	なし						
参考文献	適宜資料配布						
成績評価の方法	出欠状況・授業態度・学外活動・提出物等						

授業計画

科目名	教育原理				担当	平野 美緒		
実務経験	臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・必修・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 教育に関する基本的知識を習得し、教育について、自分なりの見方や考え方を持てるようになることをねらいとする。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 教育の必要性や目的について学び、加えて子どもが育つ家庭、地域社会、学校という場における教育の意義と役割について理解し、教育について主体的に考える力を培う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1.教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関わりについて理解する。 2.教育の思想、歴史的変遷、制度について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3.教育実践の様々な取り組みについて理解する。 4.生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。</p>								
授業計画								
第1回	教育の意義と目的							
第2回	乳幼児期の教育の特性							
第3回	教育と子ども家庭福祉の関連性							
第4回	人間形成と家庭・地域・社会等との関連性							
第5回	西欧の教育思想と歴史的変遷①							
第6回	西欧の教育思想と歴史的変遷②							
第7回	日本の教育思想と歴史的変遷							
第8回	子ども観と教育観							
第9回	教育の制度・法律							
第10回	諸外国の教育制度と実践							
第11回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の特徴							
第12回	現代における教育的課題①							
第13回	現代における教育的課題②							
第14回	学び続ける教師となるために							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	広岡義之				新しい教育原理			
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	社会的養護 I				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ <u>必修</u> ・選択必修・幼免			
【授業の目的・ねらい】								
現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する 社会的養護の制度や実施体系について理解する 社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解する								
【授業全体の内容と概要】								
子どもの最善の利益を保障する為に必要な知識について学ぶ								
【授業終了時の達成課題(到達目標)】								
社会的養護の現状と課題について理解する								
授業計画								
第1回	社会的養護の理念と概念							
第2回	社会的養護の基本原則							
第3回	社会的養護の歴史的変遷							
第4回	社会的養護の制度と法体系							
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務							
第6回	社会的養護に関する社会的状況							
第7回	家庭養護と施設養護①							
第8回	家庭養護と施設養護②							
第9回	社会的養護の対象と支援のあり方①							
第10回	社会的養護の対象と支援のあり方②							
第11回	社会的養護に関わる専門職							
第12回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題							
第13回	社会的養護と地域福祉の現状と課題							
第14回	まとめ							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	みらい				保育士をめざす人の社会的養護 I			
参考文献					適宜授業にて資料配布			
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	保育者論				担当	岡崎 由美子					
実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、保育者について考え講義を行う。					授業形態	講義				
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻				
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科				
		15			教養 必修 選択必修・幼免						
<p>【授業の目的・ねらい】 保育者の意義及び役割、職務内容などに関する知識・理解を知識として受け入れるだけでなく、その事柄を自分の力で考えていく力を養う。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育者の役割、保育者に求められる専門性の向上、職業倫理など、保育者という存在に様々な角度からの検討を加え、実践事例を取り上げながら学びを深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育に求められる保育者の専門性について理解を深め、専門性の向上を図る。</p>											
授業計画											
第1回	○オリエンテーション										
第2回	○ 保育という営み・保育者とは										
第3回	↓										
第4回					○保育観、子ども観の重要性						
第5回											・一人ひとりの子ども理解をする。
第6回					○保育者と制度						・発達と援助について考え、その方法を学び理解する。
第7回					○保育者の役割						※連絡・調整をし、伊波野保育園へ。子どもの遊びを観察
第8回											
第9回											
第10回					○保育者の職務と倫理						・幼稚園・保育所における保育者の役割について理解する。 ・求められる 保育者の倫理を理解する。
第11回					○ 保育の変遷と歴史・人物						・日本と外国の保育の歴史・影響を調べ発表。
第12回											
第13回					○保育における省察の重要性						・環境を通しての保育」「幼児の主体的な活動の確保」「現在を最もよく生き、・・・」保育の基本を踏まえ何が大切か考え学び、理解する。
第14回					○子どもの豊かな生活						
第15回					○試 験						
					出版社名				書籍名		
テキスト	建帛社				民秋言編「保育者論」						
	角川文庫				天の瞳幼年編 I						
参考文献	全国社会福祉協議会				改訂1版新 保育士養成講座 第12巻 保育者論						
	チャイルド				「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」						
成績評価の方法	試験、出席状況、提出物等										

※15回の授業終了までの間に自分で選択した書物一冊を読み込む。

授業計画

科目名	保育の心理学				担当	平野 美緒		
実務経験	臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 保育実践に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達と学習過程について理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 子どもの心身の発達や学習の過程についての心理学的知識を学び、発達を捉える視点や各発達過程の特性を踏まえた保育について理解する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 保育実践に関わる心理学の基礎的知識を学び、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達過程について、運動、言語、認知、社会性などの側面から理解し、発達に即した支援の基本を理解する。 3. 子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>								
授業計画								
第1回	オリエンテーション・子どもの発達を理解することの意義							
第2回	発達理論・発達観							
第3回	発達の道筋と初期環境の役割							
第4回	発達過程① 身体・運動							
第5回	発達過程② 認知							
第6回	発達過程③ 言語							
第7回	発達過程④ 感情							
第8回	発達過程⑤ 性格							
第9回	発達過程⑥ 社会性							
第10回	子どもの学びと保育① 愛着							
第11回	子どもの学びと保育② 遊びと学び							
第12回	子どもの学びと保育③ 知能と学習							
第13回	子どもの学びと保育④ 動機づけ							
第14回	子どもの発達における今日的課題							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	建帛社				シードブック保育の心理学 I・II			
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	子どもの食と栄養				担当	藤原真由美		
実務経験	保育所で食事提供してきた経験を活かして授業を行う					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>様々な角度から子どもの「食」と「健康」について考え、理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>到達目標の内容について概説するとともに、発表、調理実習等を通して理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>健康な生活の基本としての食生活に意義を理解できる。こどもの発育・発達と食生活について理解できる。</p>								
授業計画								
第1回	子どもの健康と食生活の意義							
第2回	子どもの発育・発達と食生活							
第3回	栄養に関する基本的知識				栄養素			
第4回	栄養に関する基本的知識				献立作成・調理の基本			
第5回	こどもの発育・発達と食生活				妊娠期			
第6回	こどもの発育・発達と食生活				乳児期の授乳・離乳期			
第7回	こどもの発育・発達と食生活				離乳食調理実習			
第8回	こどもの発育・発達と食生活				幼児期			
第9回	こどもの発育・発達と食生活				学童期～高齢期			
第10回	食育の基本と内容				目的			
第11回	食育の基本と内容				幼児食調理実習			
第12回	食育の基本と内容				おやつ調理実習			
第13回	食育の基本と内容				作品作り			
第14回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養							
第15回	特別な配慮を要するこどもの食と栄養							
	出版社名				書 籍 名			
テキスト	萌文書林				子どもの食と栄養			
参考文献								
成績の評価の方法	授業参加への積極性・出席状況・定期試験・朝食摂取							

授業計画

科目名	保育の計画と評価				担当	岩田 優子	
実務経験	保育現場での経験を活かし、実践事例を交えながら講義する。					授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養 (必修) ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 子ども理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・評価・改善)について、その全体構造を捉え理解する。「教育課程」「全体的な計画」や指導計画の作成についてその意義と方法を知る。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 指導計画は、子どもの発達状況、興味、関心、子ども同士の関わりなどを踏まえて作成することを理解し、その作成プロセスを知る。</p>							
授業計画							
第1回	オリエンテーション、「カリキュラム」とは何か						
第2回	保育の基本と計画の考え方						
第3回	幼児教育の特質						
第4回	幼稚園における「教育課程」とは						
第5回	保育所における「全体的な計画」とは						
第6回	認定こども園における教育・保育						
第7回	長期の指導計画と短期の指導計画						
第8回	指導計画の作成(0・1・2歳児)						
第9回	指導計画の作成(3歳以上児)						
第10回	幼児理解に基づいた評価の実施						
第11回	指導計画に基づく保育の柔軟な展開						
第12回	保育・教育の成立と家庭・学校・地域社会						
第13回	幼児教育と小学校との円滑な接続						
第14回	まとめ						
第15回	試験						
	出版社名		書籍名				
テキスト	光生館		乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論				
参考文献	ミネルヴァ書房		保育の計画と評価 演習ブック				
成績評価の方法	出席状況、授業態度、提出物、試験						

授業計画

科目名	保育内容総論				担当	岡崎 由美子	
実務経験	幼稚園教諭としての経験を生かして演習を行う。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養 ・ 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 保育は生活や遊びを通して総合的に指導する考え方を理解し、乳幼児期にふさわしい環境を構成し実践するために必要な知識を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 具体的な生活や遊びの中で、保育内容の5つの領域が含まれていることを理解し、実践の中で総合的に捉える視点をもって保育を進めていけるように、保育内容や保育内容を豊かにする教材について研究し発表する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育内容の理念について理解し、それを踏まえた上で、子どもの育ちを支える活動や活動の展開を実践する力を養う。</p>							
授業計画							
第1回	保育内容総論:保育内容とは・領域とは						
第2回	保育内容の特質:保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育内容						
第3回	保育内容の変遷とその背景:子ども観・保育観と保育内容						
第4回	事例で学ぶ「遊びや生活を通して学ぶということ」						
第5回	事例で学ぶ「領域と保育内容」～子どもの育ちは総合的で創造的である～						
第6回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」						
第7回	保育内容の展開①:保育計画の作成及び教材研究						
第8回	保育内容の展開②:保育計画の作成及び教材研究						
第9回	保育内容の展開③:発表						
第10回	子育て支援と保育内容①:理論						
第11回	子育て支援と保育内容②:親子活動の計画作成及び教材研究						
第12回	子育て支援と保育内容③:模擬保育・振り返り						
第13回	保育内容の現代的課題と展望①:日本の保育内容						
第14回	保育内容の現代的課題と展望②:諸外国の保育内容						
第15回	試験・レポート						
	出版社名			書籍名			
テキスト	大学図書出版			関口はつ江編 実践理解のための保育内容総論			
参考文献	フレーベル館			「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」			
成績評価の方法	出席状況、授業態度、試験、提出物						

授業計画

科目名	造形表現 I				担当	廣江 潮美		
実務経験	美術の教員として指導した経験を活かし、演習を行う					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 幼児の造形教育において必要な基本的な知識、技術を体験的に理解、習得する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 1. 授業は、「演習」の形式ですすめる。 2. 材料経験、造形表現体験が中心となるため、授業前後における材料、用具の準備、片付け、服装等の用意が必要となる。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 幼児の造形表現を豊かにするために、多様な材料体験を通して造形活動の知識や技術を理解、習得する。 2. 保育の内容「表現」を理解し、造形の基礎的な知識、技術を理解、習得する。 3. 作品や画像・制作の資料・感想等を各自スケッチブックにまとめ、振り返りや次の制作への参考とする。</p>								
授業計画								
第1回	【オリエンテーション】 造形教育の目的と内容、実技研修の意義と構え 『明度のグラデーション、パズル』(p.35)							
第2回	『色相環をつくる』(p.36) 『虹をつくる』(p.36)							
第3回	『モダンテクニック』① 「フロッターージュ」(p.20) 「スクラッチ」(p.136)							
第4回	『モダンテクニック』② 「デカルコマニー」(p.133) 「マーブリング」(p.136)							
第5回	『モダンテクニック』③ 「スタンプング」(p.42、p.135)							
第6回	『モダンテクニック』④ 「ステンシル、ローラー遊び」(p.44、p.132)							
第7回	『生活素材でつくる』(pp.55-56)							
第8回	『粘土で遊ぶ』(p.39、p.130)							
第9回	『自然素材でつくる』(pp.57-58)							
第10回	『コラグラフ版画』(p.43、p.137) 制作①							
第11回	『コラグラフ版画』(p.43、p.137) 制作②							
第12回	『新聞紙でつくる』(pp.51-52)							
第13回	『紙でつくる』(pp.45-46) 制作①							
第14回	『紙でつくる』(pp.45-46) 制作②							
第15回	作品発表・鑑賞、まとめ 幼児造形教育の果たす役割について							
	出版社名				書 籍 名			
テキスト	萌文書林				『保育をひらく造形表現』			
参考文献								
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物(作品、感想等を記録・整理したスケッチブック)							

授業計画

科目名	リズム表現 I				担当	岡崎 由美子								
実務経験	幼児教育に携わった経験を活かし、実践事例に基づいた演習を行う				授業形態	演習								
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻							
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科							
		15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免									
<p>【授業の目的・ねらい】 リトミックをとおして、保育実践の中で必要な演奏技術や表現活動を身につけ、実践へとつなげていく。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育現場で扱う曲や歌唱、楽器を使ったアンサンブルを行うための指導方法を考えたりリズムを体全体で身近な素材を活かして活動を考えたりしながら演奏する楽しさを感じる。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 音楽的知識を自分の体を使って感じとり、理解しながらそれらを実践的に展開していく。</p>														
授業計画														
第1回	オリエンテーション													
第2回	○保育の中の音楽表現とは													
第3回	子どもの遊びと音楽													
第4回	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>♪ブルグミュラー：「アラベスク」、「バラード」の何れか選択し演奏。</p> <p>♪子どもの歌に自分で考えた伴奏(左手)を付け、演奏。</p> <p>♪乳児期、幼児期の音楽的発達を考えながら教材選択や指導上の留意点を考え、理解する。</p> <p>※リズムの流れを楽譜に落とし、身体表現の略図を書き楽譜を完成する</p> </div>													
第5回														
第6回														
第7回														
第8回														
第9回														
第10回														
第11回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回								試 験 →	ピアノ演奏、表現実技					
参考文献								国立音楽大学付属幼稚園 幼児のためのリトミック						
								教育芸術社 おんがくのしくみ歌って動いてつくってわかる音楽理論						
								全音楽出版社:ダルクローズによるリトミック指導1、2、3						
成績評価の方法	授業態度、提出物、実技等													

授業計画

科目名	乳児保育Ⅱ				担当	岩田 優子	
実務経験	乳児保育に携わった経験を活かし、援助やかかわり方の実際を伝える。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳児保育における養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもたちの生活や遊び、保育の方法や環境について体験授業や映像を通して可視化・理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「乳児保育Ⅰ」で学んだ発育・発達の特徴を理解した上で、実際にどう援助していくのかを学ぶ。 ・乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。 <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>乳児の発育・発達を踏まえた保育者のかかわりや計画、環境構成を実践につなげるイメージをもつことができる。</p>							
授業計画							
第1回	乳児保育の基本(乳児保育Ⅰの要点)						
第2回	乳児保育における指導計画①						
第3回	乳児保育における指導計画②						
第4回	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境①						
第5回	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境②						
第6回	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境③						
第7回	集団での生活における配慮						
第8回	環境の変化や移行に関する配慮						
第9回	} 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・沐浴、授乳の体験 ・実際の保育場面や映像を通して、かかわり方や保育環境について考える。 ・手作りおもちゃ作成 					
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回	試験						
	出版社名	書籍名					
テキスト	フォーラム・A	乳児保育					
参考文献	ミネルヴァ書房	乳児保育演習ブック					
成績評価の方法	出席状況、授業態度、提出物、試験						

授業計画

科目名	保育実習指導 I				担当	岩田 優子		
実務経験	保育現場で実習指導に携わった経験を活かし、細やかな指導をする。					授業形態	演習	
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
	15	15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I の意義・目的・内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。 ・保育実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 <p>【授業全体の内容と概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習を行う上での知識・技術の習得を通し、実習の観点を明確にする。 ・記録、日誌、指導計画の実際を学ぶ。 ・事後指導を通して実習の総括と自己評価を行う。 <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>自己評価を通して、保育士を目指すための課題を明確にし、今後の学習と自己研鑽に努める意識をもつ。</p>								
授業計画								
第1回	保育実習とは(意義・目的・概要・心構え)				第16回	実習事後指導①(振り返り、自己評価)		
第2回	実習で何を学ぶか				第17回	実習事後指導②(報告会に向けて)		
第3回	観察・体験学習の視点				第18回	報告会		
第4回	観察・体験学習①				第19回	施設実習とは(意義・目的・概要・心構え)		
第5回	観察・体験学習②				第20回	施設実習への準備		
第6回	観察・体験学習③				第21回	実習施設の事前学習		
第7回	観察・体験学習④				第22回	事前訪問7について		
第8回	観察・体験学習の振り返り				第23回	実習目標作成		
第9回	事前訪問7について				第24回	実習の記録(日誌)について ※保育所実習日誌の改善点を踏まえて		
第10回	実習目標作成				第25回	実習の記録(日誌)の書き方演習 ※記録の対象児童は18歳まで		
第11回	実習の記録(日誌)について				第26回	実習事前指導(確認事項、お礼状他)		
第12回	実習の記録(日誌)の書き方演習				第27回	実習事後指導①(振り返り、自己評価)		
第13回	指導案について(部分実習に向けて)				第28回	実習事後指導②(報告会に向けて)		
第14回	指導案作成演習				第29回	報告会		
第15回	実習事前指導(確認事項、お礼状他)				第30回	保育実習 I 総括(保育士を目指すには)		
	出版社名				書籍名			
テキスト	ナツメ社 みらい		大元千種編 実習の日誌と指導案 喜多一憲編 福祉施設実習ハンドブック 適宜授業にて資料配布					
参考文献	フレーベル館		保育所保育指針解説					
成績評価の方法	出席状況・授業態度・提出物等							

授業計画

科目名	音楽基礎Ⅱ				担当	三島 祐司	
実務経験	音楽の専門知識・技能をもって、学生に演習を行う					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
		15			教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 保育者・教育者として音楽を通して子どもの豊かな心を育てることができるよう、 保育現場で必要とされる音楽の知識・技能を習得する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 本講義では「音楽基礎Ⅰ」に引き続き、保育現場に必要なピアノの技能習得を目指し、習熟度に応じた個人レッスンを行う。 また、音楽の基礎的知識や音楽の歴史を学び、その定着を図る。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育現場に必要なピアノの技能を習得し、弾き歌い及びコード弾きができる。 また、そのために必要な音楽の知識を身につけ、演奏に生かすことができる。</p>							
授業計画							
第1回	バイエル70番台orバイエル90番台 弾き歌い1曲目(ピアノのみ)				音程(完全、長短)		
第2回	バイエル70番台orバイエル90番台 弾き歌い1曲目(ピアノと歌)				音程(増減)		
第3回	バイエル70番台orバイエル90番台 弾き歌い1曲目(仕上げ)				和音とコードネーム		
第4回	バイエル80番台orバイエル90番台 弾き歌い2曲目(ピアノのみ)				和音とコードネーム		
第5回	バイエル80番台orバイエル90番台 弾き歌い2曲目(コード弾き)				和音とコードネーム		
第6回	バイエル80番台orバイエル90番台 弾き歌い2曲目(ピアノと歌)				移調		
第7回	バイエル80番台orバイエル100番台 弾き歌い2曲目(仕上げ)				移調		
第8回					中間発表		
第9回	バイエル80番台orバイエル100番台 弾き歌い3曲目(ピアノのみ)				子どものうたの歴史(わらべうた、明治～大正)		
第10回	バイエル80番台orバイエル100番台 弾き歌い3曲目(ピアノと歌)				子どものうたの歴史(昭和～平成)		
第11回	バイエル90番台orバイエル100番台 弾き歌い3曲目(仕上げ)				コード弾きの練習及び歌唱		
第12回	バイエル90番台or練習曲 弾き歌い4曲目(ピアノのみ)				コード弾きの練習及び歌唱		
第13回	バイエル90番台or練習曲 弾き歌い4曲目(ピアノと歌)				コード弾きの練習及び歌唱		
第14回	バイエル90番台or練習曲 弾き歌い4曲目(仕上げ)				筆記テスト		
第15回					実技試験(バイエルの中から1曲+弾き歌い3)		
	出版社名			書籍名			
テキスト	全音楽譜出版社			「標準バイエルピアノ教則本」			
成績の評価の方法	授業態度及び日頃の練習状況、中間発表、筆記テスト、実技試験を総合して評価します。						

授業計画

科目名	福祉と教育				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する					授業形態	講義	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
		15			教養・必修・選択必修・ <u>幼免</u>			
【授業の目的・ねらい】								
福祉と教育は共通している点が多い。しかしその一方で相反する点も少なくはない。共通点や相違点を考察しながら一方的な支援や教育に陥らないために必要な事を検討する。またコミュニケーション能力を円滑に行うための知識や技術を習得し、柔軟的な思考力や課題解決能力を養うことを授業の目的とする。								
【授業全体の内容と概要】								
演習や事例検討を用いながら福祉と教育の現状と課題について考察する。								
【授業終了時の達成課題(到達目標)】								
福祉と教育の共通点や問題点を踏まえた上で、福祉や教育の現場における実践力を養うことを到達目標とする。								
授業計画								
第1回	我が国における教育と福祉の現状①							
第2回	我が国における教育と福祉の現状②							
第3回	我が国における教育と福祉の現状③							
第4回	福祉と教育の共通点①							
第5回	福祉と教育の共通点②							
第6回	福祉と教育の課題①							
第7回	福祉と教育の課題②							
第8回	対人援助の方法①							
第9回	対人援助の方法②							
第10回	対人援助の方法③							
第11回	今後の福祉と教育①							
第12回	今後の福祉と教育②							
第13回	今後の福祉と教育③							
第14回	まとめ							
第15回	試験							
	出版社名	書籍名						
参考文献	ミネルヴァ書房	『新・社会福祉要説』『教職科目要説-初等教育編』『教職科目要説-中等教育編』						
	中央法規	『保育児童福祉要説』						
		適宜授業にて資料配布						
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	就職支援				担当	舟木賢治／持田陽子	
実務経験	職業訓練サービスガイドライン研修修了者、就職支援実践者として支援を行う					授業形態	演習
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
	7	8	7	8	(教養) 必修・選択必修・幼免		
【授業の目的・ねらい】							
社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な技術を学習する							
【授業全体の内容と概要】							
自己理解を深め、将来のあり方生き方を主体的に考えて具体的な取組みができるようになることをめざし、2年間を通して学習する。校内での授業は、講義演習形式を用いて実施する。また、主体的に行動できるようになるために学外においても活動を実施する。							
【授業終了時の達成課題(到達目標)】							
社会人としての基礎知識を学び、就労した際に必要な知識や技術を習得する							
授業計画							
第1回	ガイダンス(授業のねらい・内容と進め方等について)				第16回	1年次振り返り	
第2回	自己理解について				第17回	ジョブカード作成	
第3回	自分のめざす社会人像について				第18回	個別面談①進路希望調査	
第4回	職業理解(保育士の仕事の内容と職場環境について)				第19回	個別面談②進路希望調査	
第5回	自分の目指す保育士像と達成への具体的な取組みについて				第20回	福祉人材センターへの登録	
第6回	個別面談①(進路希望調査)				第21回	就職先についての情報収集①	
第7回	ジョブカード作製				第22回	就職先についての情報収集②	
第8回	求人票の見方、検索方法				第23回	就職を見据えた活動①	
第9回	履歴書の書き方				第24回	就職を見据えた活動②	
第10回	電話のかけ方、話し方				第25回	就職を見据えた活動③	
第11回	礼状の書き方				第26回	就職を見据えた活動④	
第12回	面接マナーと自己PR				第27回	個別面談③進捗状況調査	
第13回	採用試験対策				第28回	就職を見据えた活動⑤	
第14回	就職活動に向けた調査①				第29回	就職を見据えた活動⑥	
第15回	就職活動に向けた調査②				第30回	まとめ	
テキスト	なし						
参考文献	適宜資料配布						
成績評価の方法	出欠状況・授業態度・学外活動・提出物等						

授業計画

科目名	子ども家庭支援論				担当	持田 陽子・平野 美緒	
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する。 臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	講義
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども福祉科
				15	教養・ 必修 ・選択必修・幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 子ども家庭支援の意義を理解し、保育士の専門性を活かした支援の特徴や問題解決の実際を知る。加えて、子育て家庭に対する支援体制を理解し、多様なニーズに応じた支援の展開と関係機関との連携について理解する。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 子育て家庭に対する支援の意義と目的、様々な子育て家庭のニーズに応じた支援の実施体制、子育て家庭に対する支援の方法等について学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</p>							
授業計画							
第1回	子ども家庭支援の意義と役割 (持田)				(1) 子ども家庭支援の意義と必要性		
第2回					(2) 子ども家庭支援の目的と機能		
第3回					(3) 家庭の状況に応じた支援		
第4回	子育て家庭に対する支援の体制				(1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源		
第5回					(2) 育て支援施策・次世代育成支援施策の推進		
第6回	多様な支援の展開と関係機関との連携				(1) 子ども家庭支援の内容と対象		
第7回					(2) 保育所等を利用する子どもの家庭への支援		
第8回					(3) 地域の子育て家庭への支援		
第9回					(4) 要保護児童等およびその家庭に対する支援		
第10回					(5) 子どもの家庭支援に関する現状と課題		
第11回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (平野)				(1) 保育士の専門性を活かした子ども家庭支援とその		
第12回					(2) 子どもの育ちの喜びの共有		
第13回					(3) 保護者の養育力向上に資する支援		
第14回					(4) 保育士に求められる基本的態度		
第15回	試験						
	出版社名				書籍名		
テキスト	テキストなし 適宜資料を配布						
参考文献							
単位認定方法	授業態度、出席状況、提出物、定期試験						

授業計画

科目名	子どもの育ちと文化				担当	岩田 優子	
実務経験	保育現場の経験を活かし、現場で必要な保育技術を伝える。					授業形態	演習
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科
				15	教養 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免		
<p>【授業の目的・ねらい】 より実践的な技術の向上を目的とし、基本を抑えた上での表現の幅を広げていく 子どもたちが創り出す遊びについて話し合い子どもの文化 について考えていく</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育の中の文化活動を体験的に学び、技術として身につける グループ活動を通して協調性や協同性を養う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育の内容を理解し言語表現活動を体験的に学ぶ 子どもの遊びを豊かにする展開方法を学ぶ 具体的な遊びの工夫(伝承遊び・創作遊び)、技術(絵本の読み聞かせ・芝居を演じる・素話等)を身につける 自分の得意とする保育技術を見つけ、更なる向上心をもつ。</p>							
授業計画							
第1回	オリエンテーション						
第2回	子どもの文化とは何か						
第3回	児童文化財と保育						
第4回	伝統行事と伝承遊び						
第5回	実践演習①						
第6回	実践演習②						
第7回	実践演習③						
第8回	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※表現していくことの 楽しさを感じ取りなが らいろいろな人と関 わって一つの作品づく りを体験する。</p> <p>※考え・工夫・協働作 業を行うことを基本と して授業を進めていく。</p> </div>						
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回	評価	発表					
	出版社名	書籍名					
テキスト	なし						
参考文献	ミネルヴァ書房	子どもの文化 演習ブック					
成績評価の方法	出席状況・授業態度(積極性)・提出物						

授業計画

科目名	子どもの健康と安全				担当	舟木 賢治		
実務経験	医学部や看護学校における発生学、解剖・生理学の講義及び実習指導の経験を活かし、保育における保健的対応について演習を行う。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
				15	教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>1.保育における保健的観点を踏まえた保育環境とその整備、必要な援助について理解し、説明できるようになる。</p> <p>2.保育における保健的対応の基本的な考え方を理解し、子どもの発達や状況を考慮した上で、体調不良等に対して具体的かつ適切に対応できるようにする。</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、講義をベースに演習を組み入れながら学習の理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>1.子どもにとって望ましい保育環境を考え、保育現場の衛生管理や安全対策について説明できる。</p> <p>2.子どもが傷病を負った場合に、適切に対応することができる。</p> <p>3.子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的な連携について説明できる。</p>								
授業計画								
<p>(1) 保健的観点を踏まえた保育環境および援助とは</p> <p>(2) 保育における保健活動① 子どもの健康状態および発育発達状況の把握</p> <p>(3) 保育における保健活動② 身体計測と記録およびその評価 〔演習〕</p> <p>(4) 保育における健康および安全の管理① 衛生管理</p> <p>(5) 保育における健康および安全の管理② 事故防止と安全対策</p> <p>(6) 保育における健康および安全の管理③ 事故防止と安全対策 ～子どもの目で見た生活環境～ 〔演習〕</p> <p>(7) 健康および安全の管理の実施体制① 保健だよりの作成 〔演習〕</p> <p>(8) 健康および安全の管理の実施体制② 家庭および他機関との連携</p> <p>(9) 子どもの体調不良に対する対応① 健康観察と症状別の養護</p> <p>(10) 子どもの体調不良に対する対応② 症状別の養護と保育現場での薬品の取り扱い</p> <p>(11) 子どもの体調不良に対する対応③ 傷害発生時の応急処置</p> <p>(12) 子どもの体調不良に対する対応④ 個別的配慮を要する子どもへの対応 〔演習〕</p> <p>(13) 事故発生時の対応</p> <p>(14) 心肺蘇生法と気道内異物 (日本赤十字社島根県支部より指導) 〔演〕</p> <p>(15) 試験</p>								
	出版社名		書籍名					
テキスト	ななみ書房		「子どもの健康と安全」 中根淳子・佐藤直子 編著					
参考文献			なし					
成績評価の方法	試験(50%)、提出物(40%)、授業態度(10%)を総合して評価します。							

授業計画

科目名	社会的養護Ⅱ				担当	持田 陽子		
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
				15	教養・ 必修 ・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子ども理解を踏まえた結果社会的養護の基礎的な内容について理解する 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 社会的養護における子どもの虐待防止と家庭支援について理解する</p> <p>【授業全体の内容と概要】</p> <p>子どもの最善の利益を考察し、保育者として具体的な子どもに対する養護を学ぶ</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>子どもの最善の利益を考察した結果、保育者として具体的な子どもに対する養護を理解する</p>								
授業計画								
第1回	社会的養護における子どもの理解							
第2回	家庭養護の生活特性及び実際							
第3回	社会的養護における家庭支援							
第4回	施設養護の生活特性及び実際 乳児院							
第5回	施設養護の生活特性及び実際 障害児施設等							
第6回	社会的養護の内容①日常生活支援							
第7回	社会的養護の内容②心理的支援							
第8回	社会的養護の内容③自立支援							
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成							
第10回	記録及び自己評価							
第11回	社会的養護における保育の専門性に関わる知識と技術その実践							
第12回	社会的養護における相談援助の知識と技術その実践							
第13回	今後の社会的養護の課題と展望							
第14回	まとめ							
第15回	試験							
	出版社名				書籍名			
テキスト	みらい				保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ			
参考文献					適宜授業にて資料配布			
成績評価の方法	授業態度・出席状況・提出物・定期試験							

授業計画

科目名	子育て支援				担当	持田 陽子・平野 美緒		
実務経験	福祉及び教育現場での実務経験を活かし講義演習を実施する。 臨床心理士、公認心理師としての専門性と現場経験を活かし、講義を行う。					授業形態	演習	
単位数	2				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
				15	教養・必修・選択必修・幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 子育て支援に関する子ども及び保護者のニーズと社会資源について理解する。その上で、保護者との信頼関係を形成し、保育相談支援が実践できる基本的知識と方法を身につける。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 保育者が行う子育て支援のあり方や地域の関係諸機関との連携について学習する。また、演習課題等を通して、保育相談支援における保護者との相互理解や職員間の連携について学習する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法および技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>								
授業計画								
第1回	保育士の行う子育て支援の特性(平野)				(1) 子どもの保育とともにを行う保護者の支援			
第2回					(2) 子育て支援の基本的価値・倫理			
第3回					(3) 保護者との相互理解と信頼関係の構築			
第4回	保育士の行う子育て支援の展開				(1) 子ども及び保護者の状況・実態の把握			
第5回					(2) 支援の計画と環境の構成			
第6回					(3) 支援の実践・記録・評価・カンファレンス			
第7回					(4) 職員間の連携・協働			
第8回					(持田)	(5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働		
第9回	保育士の行う子育て支援とその 実際(内容・方法・技術) (持田)				(1) 保育所等における支援			
第10回					(2) 地域の子育て家庭に対する支援			
第11回					(3) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援			
第12回					(4) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援			
第13回					(5) 子ども虐待の予防と方法			
第14回					(6) 要保護児童等の家庭に対する支援			
第15回	試験				(7) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解			
	出版社名				書籍名			
テキスト	テキストなし 適宜資料を配布							
参考文献								
単位認定方法	出席状況、授業態度、提出物、試験							

授業計画

科目名	卒業研究				担当	舟木 賢治(こども福祉科全教員)		
実務経験	大学での研究および理学博士取得の知識・経験を活かし、卒業研究・論文作成を指導する					授業形態	演習	
単位数	4				学 科	<input type="checkbox"/> ITビジネス	<input type="checkbox"/> 情報システム専攻	
授業時期(回数)	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		<input type="checkbox"/> システムエンジニア	<input checked="" type="checkbox"/> こども福祉科	
			15	15	教養 必修 ・ 選択必修 ・ 幼免			
<p>【授業の目的・ねらい】 個人またはグループによるプロジェクト学習(研究)を進めて、卒業論文あるいは創作作品の完成と発表をめざす。</p> <p>【授業全体の内容と概要】 個人またはグループで研究を推進し、節目ごとに受講生全員で相互検討会を開催する。教員による指導は、適宜、個別に行う。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 以下の到達目標を設定し、保育現場や実社会の問題と各自の問題をつなぐ知的能力の形成を図る。</p> <p>①卒業研究として適切なテーマを設定することができる ②設定したテーマの情報を収集し、分析することができる ③研究・論文執筆計画を作成することができる ④卒業論文の書式にそって執筆し、研究成果を卒業論文としてまとめることができる</p>								
授業計画								
第1回	ガイダンス				「卒業研究」の授業計画について解説			
第2回	卒業研究とは							
第3回	卒業研究の進め方について							
第4回	卒業論文のまとめ方について							
第5回	研究題目(仮題)の検討							
第6回	研究題目(仮題)の発表と討議							
第7回	研究計画の検討							
第8回	研究計画の立案・作成							
第9回	研究および論文作成計画の発表(1)				各自の研究・論文作成計画からの学び合い			
第10回	研究および論文作成計画の発表(2)							
第11回	先行研究やデータの収集							
第12回	先行研究やデータの収集							
第13回	先行研究やデータの収集							
第14回	先行研究やデータの収集							
第15回	中間発表とその準備について							
第16回	中間発表							
第17回	中間発表							
第18回	論文作成および作品制作							
第19回	論文作成および作品制作							
第20回	論文作成および作品制作							
第21回	論文作成および作品制作							
第22回	論文作成および作品制作							
第23回	論文作成および作品制作							
第24回	論文作成および作品制作							
第25回	最終経過報告							
第26回	卒業研究発表の準備と個別指導							
第27回	卒業研究発表の準備と個別指導							
第28回	卒業研究発表の準備と個別指導							
第29回	卒業研究発表会							
第30回	卒業研究発表会							
	出版社名				書籍名			
テキスト					適時、資料を配布する。			
参考文献								
成績評価の方法	卒業論文・創作作品・中間発表・卒業研究発表							